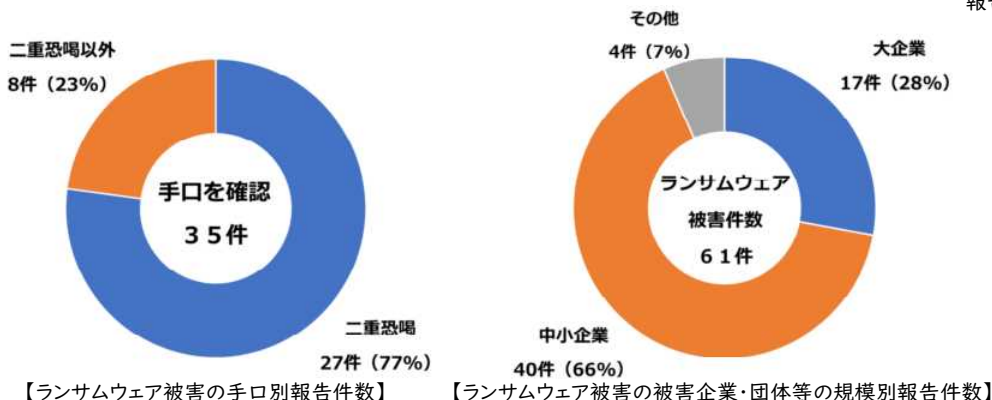
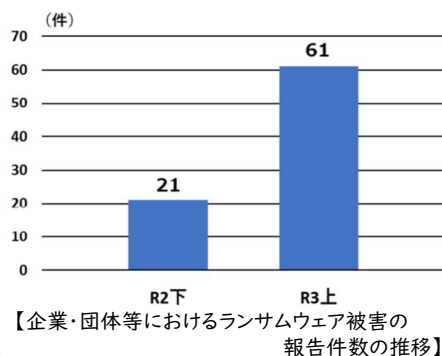


令和3年上半期のサイバー空間の脅威情勢

ランサムウェアによる「二重恐喝」の手口が目立つ

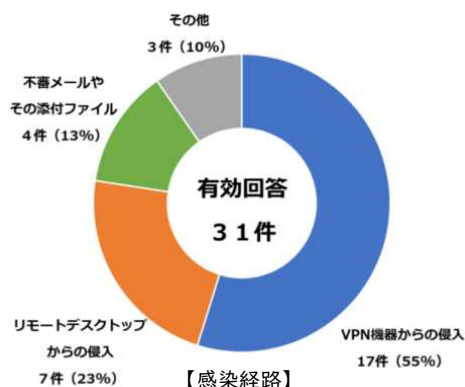
警察庁に報告された国内におけるランサムウェアによる被害件数は、前年下半期と比較して大幅に増加し、中でも「対価を支払わなければ盗み出したデータを公開する」という二重恐喝の手口が大半を占めています。

また、企業・団体の規模を問わず被害は発生しています。



感染経路はVPNが半分以上

ランサムウェアの侵入経路はVPN機器からの侵入が55%、次いでリモートデスクトップからの侵入が23%を占め、テレワーク等の普及により増えた外部ネットワークとの接続点が、悪意のある者から狙われやすい状況にあります。



コロナウイルス感染症関連事案は下火に

コロナウイルス感染症に関連するサイバー犯罪が疑われる事案として警察庁に報告のあった件数は109件と、前年同期の608件から大きく減少しました。

しかし、テレワークを初めとした新しい生活様式・働き方の流れは今後も続くと思われることから、VPNやWeb会議サービス等のセキュリティ確保に継続して注意を払うことが必要です。